

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|--|--|
| 事業所番号 | 0475500898 | | |
| 法人名 | 有限会社 宮城福祉総合研究所 | | |
| 事業所名 | グループホーム フォークソング 1号棟 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市泉区野村字野村161-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 4年 11月 1日 | | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 令和 4年 12月 6日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小さい事業所ならではの、アットホームな雰囲気を大切にしています。グループホームは「施設」ではなく「家」であるという考えのもとに、職員は利用者様のことを顧客として尊重しながらも、家族に代わって常に暖かく寄り添う存在として、日々のケアに取り組んでいます。利用者様には料理や掃除などの日常的な作業にも積極的にご参加いただき、職員の支援を受けながら、楽しみや役割、やりがいをもって、日々笑顔多く過ごしていただいています。法人の代表者が管理者・介護職員を兼務しており、この2年間グループホームとしてのサービスの質の向上、また、職場としての環境の改善に、積極的に取り組んでまいりました。職員の定着、精神的な安定、職場への愛着が、上質なサービスの提供に大きく影響すると思っており、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地下鉄泉中央駅より県道35号線を西へ2kmほどの所にある。2ユニット平屋建てで東方面に住宅街と農地が広がり、北西方面には商業施設が立ち並ぶ環境にある。目標として掲げていた「事故なく充実したケアを行う」には、タブレットを導入し一人ひとりのバイタルや生活履歴を職員間で共有し効率化を図り、見守りやケアにかける時間を増やし取り組んでいる。理念に沿って本人本位にその人らしさを大切にされたケアを実践している。5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・所作)を推奨し職場の仕事環境を整え統一したケアの実践で、職員間のチーム力の強化を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名:グループホームフォークソング)「1号棟」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 全職員で理念を共有している。職員はご家族に代わって利用者様に常に暖かく寄り添う存在として、入居者様をなによりも優先する支援を心がけ実践している | 開設時に作成した理念「利用者が主人公・生きがいのある生活・尊厳を保つ・地域社会と共に」が、介護の基本という思いで継承している。ホール内に掲示し職員に意識づけている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 利用者の高齢化、重度化、新型コロナの影響で外出支援が困難な状態だが、コロナが落ち着いた期間は地域の情報を得てボランティア等の来訪を通して交流している | 町内会に加入している。地域の方12名がホームの窓拭きボランティア活動に来訪した。窓を拭きながら入居者と挨拶をするなど交流ができた。隣人から町内の情報を得ている。中学生の職場体験は中止している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 近隣への散歩時に地域の方々や挨拶を交わし地域への認知度を高めている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 新型コロナの影響で、運営推進会議は社内メンバーのみで実施。地域包括、民生委員、地区社協、入居者様のご家族、入居者家族代表に資料送付し情報提供を行いサービス向上に努めている | 奇数月に入居状況や行事報告、研修内容、社内メンバーでの推進会議の議事録を送付し、書面会議としている。地域包括職員などのメンバーから、コロナに負けず頑張りましょう等励ましの返信があった。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 研修会等を通じて地域包括と、ボランティア活動の依頼などで地区の社協と連絡を取り合い、お互いの協力関係を築いている。 | 区役所に入居者の介護用品購入について相談をしたり、健康診断の申し込みに行っている。コロナ感染が拡大した際には、抗原検査キットの配布を受けた。生活保護受給者の情報交換をしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に関して入社時及び年間2回の内部研修、その他外部研修において職員全員が熟知しケアに取り組んでいる、身体拘束の可能性を感じたらすぐ報告するように日頃から通達している | 「身体拘束廃止活動委員会」を運営推進会議のメンバーで開催している。年2回虐待と身体拘束防止の研修をしている。「ちょっと待って下さい」のスピーチロックや強い口調には、「より良いケアのために口調を変えて」の研修をして職員の意識を高めている。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待に関して入社時及び年間2回の内部研修、その他外部研修において職員全員が熟知し、グレーゾーンのないケアに取り組む努力をしている。虐待の可能性を感じたらすぐ報告するように日頃から通達している | 他事業所の事例から食事に混ぜて投薬した例をあげてグレーゾーンの研修を行い、虐待の無いケアに取り組んでいる。管理者は、職員がストレスをためないよう何時でも話が出来る環境作りをしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修に参加し、内部研修を通じ権利擁護に関する資料を常に活用出来る様になっている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には契約書等を見ていただきながら一項目づつ丁寧に説明し、不明な点については納得、理解していただける様十分な説明をさせて頂いている。「よくある質問回答集」を事前にお渡ししている。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族の来所時にご要望やご心配ことなどをお伺いし、不安がないように努めている。ちょっとしたことでもこまめに電話等でご報告し、ご家族とお話する機会を増やす努力をしている。玄関には意見箱を設置している | 通院時に来訪した際や状態変化や介護計画書作成時に電話で意見を聞いている。家族で誕生日祝いをしたいや墓参りに連れて行きたいなど家族との外出の希望に応じている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 法人の代表者、管理者が現場シフトに入るなどして、日々意見や提案、思いなどを述べ合い、よりよいサービス提供ができるよう努めている | 職員から日々使用しているハンドミキサーの買い替えや、ホール内に空気清浄機購入の要望に対応している。職員のスキルアップに向けての研修や資格取得時は、シフト変更等の支援をしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人の代表者、管理者が現場シフトに入るなどして、日々意見や提案、要望などを述べ合い、よりよい職場環境を整えるよう努めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 正社員を中心に外部研修に参加させている。年間研修計画書に基づき全員を対象に毎月内部研修を実施。コロナの影響で外部講師招へいは見合わせ中 | | |
| 14 | (9) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 新型コロナの影響で、同業間の交流は原則中止。入退所の際など、他社ケアマネ等と情報交換を行っている。訪問の医師、看護師、歯科衛生士、薬剤師とコミュニケーションを図り、知識等を深める努力をしている。 | 運営推進会議のメンバーでもあるニチイ学館の方とは、介護用品等の相談をしながら交流を図っている。調剤薬局の薬剤師が入居者の薬を分包し届けに来た際、薬について質問したりしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の実態調査や関係機関からの情報を収集・社内で共有し、早期に本人の要望、不安を把握して、職員全員と信頼関係を築いて安心して生活いただけるように努力している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初期段階において積極的にご本人やご家族から十分に話を伺って、不安、要望などを確認し、信頼関係構築に努めている。入居後は管理者からご家族にこまめにお電話してご様子をご報告するなどしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前後のご本人・ご家族のお話の中から、現在の不安や困りごと等を伺い、要望に寄り添ったケアプランを策定して適切なケアが行えるよう努めている。入居1か月後にケアプランを見直し、内容をより適切なものに更新している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は入居者様にとって家族に代わる存在となる役割を理解し、その方ができる部分は維持継続の支援、出来ない部分はさりげなく補いながら、協力しあって生活していける関係を築いている | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族とお話する際には、過去のエピソードなどのヒアリングをさりげなく行って情報を集め、その人らしさを引き出せるよう、ご家族と共に支えている | | |
| 20 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 新型コロナの影響で断続的ではあるが、ご家族の協力を得ながら、ご本人のご友人から手紙やお電話をいただいたりするなど、無理のない範囲で関係が途切れないよう支援している | 家族や友人から電話が来た時は、取次ぎ関係を断ち切らない支援をしている。入居者同士がホールでおしゃべりをしたり、居室を訪ねている。2か月毎に来訪する理美容師にカットをして貰うのを楽しみにしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個性を大切にしてお互いを認め合える様支援している。また入居者様の今までの生活環境・能力・相性に合わせた過ごしやすい環境を作り方を支援している(声掛け、席の配置など) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 新型コロナの影響で面会などの限りはあるが、他施設に移られた後でも家族や先方施設からの連絡があれば積極的に相談に応じている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入所後も都度ご希望やご意向を伺っている。また、思いの表現が出来ない入居者様には意向を汲み取るよう、声掛けや質問を工夫するなど努力に努めている | 日常会話の端々から感じ取り、編み物やぬり絵をしたいなど個々に合わせた対応をしている。意思表示が困難な方には、ゆっくりとした口調で話しかけ、顔の表情を見ながら対応している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の生活歴など、ご家族に専用用紙をご記入いただき、またご本人からお話を伺い、今までの生活と大きな変化なく、本人らしい生活が送れるよう支援に努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 現場で働くすべての職員が利用者様一人一人の状況を観察し、経過記録、介護計画実施記録をつけ、利用者様の变化等につき毎日2回のメール報告で状況を共有している。 | | |
| 26 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員は毎日、ケアプランの内容に合ったケアができたか実施記録をつけている。定期的にご本人やご家族にご要望を伺い、ご要望や現状に即した介護計画を作成している | モニタリングでの情報や受診時の医師の意見を入れて、3ヵ月毎に介護計画書の見直しをしている。退院後理学療法士と契約をしてリハビリを計画に入れた。急変時は随時計画書の見直しをし家族に確認を行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 経過記録・介護計画実施記録を通して職員間で情報を共有しモニタリング、カンファレンスを行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人やご家族の要望に応じて、新型コロナの感染状況を見ながら外出や外泊等柔軟に対応している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 新型コロナの影響で限りはあるが、近隣の外出支援やボランティアの訪問により日々の生活にメリハリのある生き生きとした豊かな生活が送れるよう支援している | | |
| 30 | (13) | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者様全員が2週間に1回、往診医を受診しており、医師には都度状況報告・相談をしている。入居者様の急な状態変化があった場合は主治医に24時間連絡でき、往診してもらえる体制を取っている | 全員が協力医の訪問診療を受けている。週1回の訪問看護ステーションと連帯が取れており、24時間緊急時に対応できる。協力歯科医と契約をしている方は、月2回の訪問診療で治療や口腔ケアを受けている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回の訪問看護師による健康チェックを行い管理している。入居者様の要望などを記録紙に記入し、状況に応じた相談や支援を行っている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時には医師や看護師との連絡やサマリーによる情報交換を行って状態を把握している。多くの場合先方の医療機関の相談員と関係づくりを行っている | | |
| 33 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所の際、ホームの「重度化及び終末期の対応指針」をご理解いただき、ご家族から同意を得ている。終末期が近い場合はご家族、医師、管理者の3者で協議を行い、他施設含め、利用者様にとって一番よいと思われる状況を整えられる体制をとっている | 「重度化・終末期ケア対応指針」があり、入居時に説明をしている。看取りまで希望する方がいるため、職員対象に「看取り介護」の研修を行っている。看取り後、家族から感謝の言葉を貰った。ホーム独自の看取り介護のマニュアルを作成中である。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変・事故発生時は職員がしっかりと対応出来る様、目立つ箇所への連絡先の掲示や、日々の申送りでも対応を共有している、またマニュアルは目に付くところに置き、常に閲覧出来るようにしている | | |
| 35 | (15) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に日中・夜間の災害を想定して訓練を行い消防署からの指導の下、職員全員周知し、また近隣の住民とも協力体制を築いている | 夜間想定を含め年2回の訓練を実施している。消防署員から居室前の暖簾には、防災素材の物を使用する等の助言があった。備蓄品は、飲料水やアルファ米3日分、カセットコンロ等を用意している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (16) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 運営理念に基づき、一人一人の人格を尊重し、誇りとプライバシーに対応している。日々の入居者様との会話の中で、年長者に対して意識し、尊厳を保つことに注力している。 | 居室に入る際は、本人に入室許可を得てから入るなど、入居者のプライバシーに配慮している。小さな声でトイレに誘う等、入居者の羞恥心に配慮するよう職員間で申し合わせている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自立支援に基づき、可能な限り自己決定が出来るよう、こまやかにご要望を伺うなどして、職員主導にならないよう配慮しながら支援している | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人一人のペースに合わせて、こまやかにご要望を伺うなどして、その時々希望に添えるよう出来る限りの支援を実施している。歌や塗り絵、家事参加など、さまざまなレクリエーションを用意している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入居者様一人一人の能力やその日の気分により選択して頂く様、都度支援している | | |
| 40 | (17) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者様個々の能力・得意分野などを大切に出来る限り一緒に食事作りや家事全般を無理のない範囲で参加して頂いている | 管理者が季節の食材や入居者の好み等を考慮し献立を工夫している。誕生日には赤飯や筑前煮、いんげんの胡麻和え、ケーキで祝っている。行事食に寿司やおせちがある。献立作成に、専門家の意見が入っていない。 | 食事の栄養バランスについて、栄養士や保健師などに年2回以上の相談を受けて頂きたい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養のバランス・水分摂取量・体重の増減など身体変化に注意し記録等により職員一同が把握し、状況に合わせて支援している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 職員は誤嚥性肺炎を理解しており口腔内の清潔や乾燥に注意し、個々の能力に合わせた口腔ケアを行っている。また訪問歯科を受診して際、歯科衛生士よりアドバイスを頂いている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (18) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の能力や状態変化に応じ職員全員が尊敬やプライバシーを保って対応するよう支援している | 1日の水分摂取量や排尿回数、排便周期を把握している。そわそわしている様子を見て声掛けをしている。布パンツやリハパンを使用し自立している方が多い。夜は足元センサーを使用して見守りを強化している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 献立に野菜等の食物繊維を多く取り入れ、水分摂取量や排泄状況を共有しやすいように記録している。1日2回の軽体操等の継続で自立排便を促すよう支援している。 | | |
| 45 | (19) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている | 個々の希望に添える様好みのお湯の温度や水量を調節し、ゆっくり入っていただける様、入浴時間を提供している | 入浴は週に2~3回である。1番風呂を希望する方が多いので、その方々は曜日を替えて入浴している。浴室は温風で温め、脱衣室は暖房機で温めている。皮膚乾燥の方には、医師の指示でローションを塗っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼・夜の生活リズムが整うよう夜間はゆっくり睡眠が取れる様支援している。また日中も静養できるよう支援している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員全員が常に確認・把握するために服薬一覧を作成し、薬状を掲示している。また変更があった場合には変更点を口頭で申送り、連絡帳・業務日誌にて共有している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 新型コロナにより断続的ではあるが、傾聴・音楽・ドックセラピーなどのボランティア来訪によりメリハリのある生活で楽しみが増えるよう支援している | | |
| 49 | (20) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天候や気候に応じて散歩や外気浴等を実施している。またご家族の協力を得て外出・外泊の支援を行っている | 少人数に分かれて、将監や高森の桜を見にドライブを楽しんだ。日常的にホームの周りを散歩したり、玄関先のベンチに座り歌ったり、おしゃべりをしている。敷地内に梅と柿の木があり、梅ジュースを作ったり柿の渋抜きをして食べている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個々人の能力に応じて外出や買物の支払いは自身で行えるよう支援している | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話の要望には時間を見て必要に応じて対応している、手紙は個々の能力に応じて対応している | | |
| 52 | (21) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 生活空間にはゆっくりくつろげるようソファを置き、また混乱なく過ごせる様不必要なものは置かず片付いた状態を心掛けている。日に数回換気、清掃を行い衛生保持に努めている。 | ホールは24度の適温に設定している。窓を開放し換気を行ったり、空気清浄機を使用し感染予防に心掛けている。季節毎に雛飾りや七夕飾り、クリスマス飾りで季節を感じている。日に2回のラジオ体操や「北国の春体操」は、入居者の楽しみの一つである。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 自席でくつろいだり、仲の良い他利用者様とソファや廊下のベンチでお話したりと、思い思い過ごして頂いている。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の際、使い慣れた食器や家具、飾り物などをお持ちいただき、なじみのあるものに囲まれて、出来るだけ以前の生活に近い状態が継続出来る様支援している。 | 使い慣れたタンスやテレビ、椅子等を持ち込んだり、人形や家族の写真を飾り、自分らしい部屋にしている。カレンダーに毎日チェックを入れてる方や入居者同士が訪問し合い、おしゃべりをしている方がいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 尊厳を重視し、トイレや居室の名札をさりげなく表示し、出来るだけ自立した生活が出来るよう支援している。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|--|--|
| 事業所番号 | 0475500898 | | |
| 法人名 | 有限会社 宮城福祉総合研究所 | | |
| 事業所名 | グループホーム フォークソング 2号棟 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市泉区野村字野村161-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 4年 11月 1日 | | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会 | | |
| 所在地 | 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階 | | |
| 訪問調査日 | 令和 4年 12月 6日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小さい事業所ならではの、アットホームな雰囲気を大切にしています。グループホームは「施設」ではなく「家」であるという考えのもとに、職員は利用者様のことを顧客として尊重しながらも、家族に代わって常に暖かく寄り添う存在として、日々のケアに取り組んでいます。利用者様には料理や掃除などの日常的な作業にも積極的にご参加いただき、職員の支援を受けながら、楽しみや役割、やりがいをもって、日々笑顔多く過ごしていただいています。法人の代表者が管理者・介護職員を兼務しており、この2年間グループホームとしてのサービスの質の向上、また、職場としての環境の改善に、積極的に取り組んでまいりました。職員の定着、精神的な安定、職場への愛着が、上質なサービスの提供に大きく影響すると思っており、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地下鉄泉中央駅より県道35号線を西へ2kmほどの所にある。2ユニット平屋建てで東方面に住宅街と農地が広がり、北西方面には商業施設が立ち並ぶ環境にある。目標として掲げていた「事故なく充実したケアを行う」には、タブレットを導入し一人ひとりのバイタルや生活履歴を職員間で共有し効率化を図り、見守りやケアにかける時間を増やし取り組んでいる。理念に沿って本人本位にその人らしさを大切にされたケアを実践している。5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・所作)を推奨し職場の仕事環境を整え統一したケアの実践で、職員間のチーム力の強化を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名:グループホームフォークソング)「2号棟」

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 全職員で理念を共有している。職員はご家族に代わって利用者様に常に暖かく寄り添う存在として、入居者様をなによりも優先する支援を心がけ実践している | 開設時に作成した理念「利用者が主人公・生きがいのある生活・尊厳を保つ・地域社会と共に」が、介護の基本という思いで継承している。ホール内に掲示し職員に意識づけている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 利用者の高齢化、重度化、新型コロナの影響で外出支援が困難な状態だが、コロナが落ち着いた期間は地域の情報を得てボランティア等の来訪を通して交流している | 町内会に加入している。地域の方12名がホームの窓拭きボランティア活動に来訪した。窓を拭きながら入居者と挨拶をするなど交流ができた。隣人から町内の情報を得ている。中学生の職場体験は中止している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 近隣への散歩時に地域の方々や挨拶を交わし地域への認知度を高めている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 新型コロナの影響で、運営推進会議は社内メンバーのみで実施。地域包括、民生委員、地区社協、入居者様のご家族、入居者家族代表に資料送付し情報提供を行いサービス向上に努めている | 奇数月に入居状況や行事報告、研修内容、社内メンバーでの推進会議の議事録を送付し、書面会議としている。地域包括職員などのメンバーから、コロナに負けず頑張りましょう等励ましの返信があった。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 研修会等を通じて地域包括と、ボランティア活動の依頼などで地区の社協と連絡を取り合い、お互いの協力関係を築いている。 | 区役所に入居者の介護用品購入について相談をしたり、健康診断の申し込みに行っている。コロナ感染が拡大した際には、抗原検査キットの配布を受けた。生活保護受給者の情報交換をしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に関して入社時及び年間2回の内部研修、その他外部研修において職員全員が熟知しケアに取り組んでいる、身体拘束の可能性を感じたらすぐ報告するように日頃から通達している | 「身体拘束廃止活動委員会」を運営推進会議のメンバーで開催している。年2回虐待と身体拘束防止の研修をしている。「ちょっと待って下さい」のスピーチロックや強い口調には、「より良いケアのために口調を変えて」の研修をして職員の意識を高めている。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待に関して入社時及び年間2回の内部研修、その他外部研修において職員全員が熟知し、グレーゾーンのないケアに取り組む努力をしている。虐待の可能性を感じたらすぐ報告するように日頃から通達している | 他事業所の事例から食事に混ぜて投薬した例をあげてグレーゾーンの研修を行い、虐待の無いケアに取り組んでいる。管理者は、職員がストレスをためないよう何時でも話が出る環境作りをしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修に参加し、内部研修を通じ権利擁護に関する資料を常に活用出来る様になっている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には契約書等を見ていただきながら一項目づつ丁寧に説明し、不明な点については納得、理解していただける様十分な説明をさせて頂いている。「よくある質問回答集」を事前にお渡ししている。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族の来所時にご要望やご心配ことなどをお伺いし、不安がないように努めている。ちょっとしたことでもこまめに電話等でご報告し、ご家族とお話する機会を増やす努力をしている。玄関には意見箱を設置している | 通院時に来訪した際や状態変化や介護計画書作成時に電話で意見を聞いている。家族で誕生日祝いをしたいや墓参りに連れて行きたいなど家族との外出の希望に応じている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 法人の代表者、管理者が現場シフトに入るなどして、日々意見や提案、思いなどを述べ合い、よりよいサービス提供ができるよう努めている | 職員から日々使用しているハンドミキサーの買い替えや、ホール内に空気清浄機購入の要望に対応している。職員のスキルアップに向けての研修や資格取得時は、シフト変更等の支援をしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人の代表者、管理者が現場シフトに入るなどして、日々意見や提案、要望などを述べ合い、よりよい職場環境を整えるよう努めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 正社員を中心に外部研修に参加させている。年間研修計画書に基づき全員を対象に毎月内部研修を実施。コロナの影響で外部講師招へいは見合わせ中 | | |
| 14 | (9) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 新型コロナの影響で、同業間の交流は原則中止。入退所の際など、他社ケアマネ等と情報交換を行っている。訪問の医師、看護師、歯科衛生士、薬剤師とコミュニケーションを図り、知識等を深める努力をしている。 | 運営推進会議のメンバーでもあるニチイ学館の方とは、介護用品等の相談をしながら交流を図っている。調剤薬局の薬剤師が入居者の薬を分包し届けに来た際、薬について質問したりしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前の実態調査や関係機関からの情報を収集・社内で共有し、早期に本人の要望、不安を把握して、職員全員と信頼関係を築いて安心して生活いただけるように努力している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初期段階において積極的にご本人やご家族から十分に話を伺って、不安、要望などを確認し、信頼関係構築に努めている。入居後は管理者からご家族にこまめにお電話してご様子をご報告するなどしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前後のご本人・ご家族のお話の中から、現在の不安や困りごと等を伺い、要望に寄り添ったケアプランを策定して適切なケアが行えるよう努めている。入居1か月後にケアプランを見直し、内容をより適切なものに更新している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は入居者様にとって家族に代わる存在となる役割を理解し、その方ができる部分は維持継続の支援、出来ない部分はさりげなく補いながら、協力しあって生活していける関係を築いている | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族とお話する際には、過去のエピソードなどのヒアリングをさりげなく行って情報を集め、その人らしさを引き出せるよう、ご家族と共に支えている | | |
| 20 | (10) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 新型コロナの影響で断続的ではあるが、ご家族の協力を得ながら、ご本人のご友人から手紙やお電話をいただいたりするなど、無理のない範囲で関係が途切れないよう支援している | 家族や友人から電話が来た時は、取次ぎ関係を断ち切らない支援をしている。入居者同士がホールでおしゃべりをしたり、居室を訪ねている。2か月毎に来訪する理美容師にカットをして貰うのを楽しみにしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個性を大切にしてお互いを認め合える様支援している。また入居者様の今までの生活環境・能力・相性に合わせた過ごしやすい環境を作り方を支援している(声掛け、席の配置など) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 新型コロナの影響で面会などの限りはあるが、他施設に移られた後でも家族や先方施設からの連絡があれば積極的に相談に応じている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (11) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入所後も都度ご希望やご意向を伺っている。また、思いの表現が出来ない入居者様には意向を汲み取るよう、声掛けや質問を工夫するなど努力に努めている | 日常会話の端々から感じ取り、編み物やぬり絵をしたいなど個々に合わせた対応をしている。意思表示が困難な方には、ゆっくりとした口調で話しかけ、顔の表情を見ながら対応している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の生活歴など、ご家族に専用用紙をご記入いただき、またご本人からお話を伺い、今までの生活と大きな変化なく、本人らしい生活が送れるよう支援に努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 現場で働くすべての職員が利用者様一人一人の状況を観察し、経過記録、介護計画実施記録をつけ、利用者様の变化等につき毎日2回のメール報告で状況を共有している。 | | |
| 26 | (12) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員は毎日、ケアプランの内容に合ったケアができたか実施記録をつけている。定期的にご本人やご家族にご要望を伺い、ご要望や現状に即した介護計画を作成している | モニタリングでの情報や受診時の医師の意見を入れて、3ヵ月毎に介護計画書の見直しをしている。退院後理学療法士と契約をしてリハビリを計画に入れた。急変時は随時計画書の見直しをし家族に確認を行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 経過記録・介護計画実施記録を通して職員間で情報を共有しモニタリング、カンファレンスを行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人やご家族の要望に応じて、新型コロナの感染状況を見ながら外出や外泊等柔軟に対応している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 新型コロナの影響で限りはあるが、近隣の外出支援やボランティアの訪問により日々の生活にメリハリのある生き生きとした豊かな生活が送れるよう支援している | | |
| 30 | (13) | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者様全員が2週間に1回、往診医を受診しており、医師には都度状況報告・相談をしている。入居者様の急な状態変化があった場合は主治医に24時間連絡でき、往診してもらえる体制を取っている | 全員が協力医の訪問診療を受けている。週1回の訪問看護ステーションと連帯が取れており、24時間緊急時に対応できる。協力歯科医と契約をしている方は、月2回の訪問診療で治療や口腔ケアを受けている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回の訪問看護師による健康チェックを行い管理している。入居者様の要望などを記録紙に記入し、状況に応じた相談や支援を行っている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時には医師や看護師との連絡やサマリーによる情報交換を行って状態を把握している。多くの場合先方の医療機関の相談員と関係づくりを行っている | | |
| 33 | (14) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所の際、ホームの「重度化及び終末期の対応指針」をご理解いただき、ご家族から同意を得ている。終末期が近い場合はご家族、医師、管理者の3者で協議を行い、他施設含め、利用者様にとって一番よいと思われる状況を整えられる体制をとっている | 「重度化・終末期ケア対応指針」があり、入居時に説明をしている。看取りまで希望する方がいるため、職員対象に「看取り介護」の研修を行っている。看取り後、家族から感謝の言葉を貰った。ホーム独自の看取り介護のマニュアルを作成中である。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変・事故発生時は職員がしっかりと対応出来る様、目立つ箇所への連絡先の掲示や、日々の申し送りでの対応を共有している、またマニュアルは目に付くところに置き、常に閲覧出来るようにしている | | |
| 35 | (15) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に日中・夜間の災害を想定して訓練を行い消防署からの指導の下、職員全員周知し、また近隣の住民とも協力体制を築いている | 夜間想定を含め年2回の訓練を実施している。消防署員から居室前の暖簾には、防災素材の物を使用する等の助言があった。備蓄品は、飲料水やアルファ米3日分、カセットコンロ等を用意している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (16) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 運営理念に基づき、一人一人の人格を尊重し、誇りとプライバシーに対応している。日々の入居者様との会話の中で、年長者に対して意識し、尊厳を保つことに注力している。 | 居室に入る際は、本人に入室許可を得てから入るなど、入居者のプライバシーに配慮している。小さな声でトイレに誘う等、入居者の羞恥心に配慮するよう職員間で申し合わせている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自立支援に基づき、可能な限り自己決定が出来るよう、こまやかにご要望を伺うなどして、職員主導にならないよう配慮しながら支援している | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人一人のペースに合わせて、こまやかにご要望を伺うなどして、その時々希望に添えるよう出来る限りの支援を実施している。歌や塗り絵、家事参加など、さまざまなレクリエーションを用意している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入居者様一人一人の能力やその日の気分により選択して頂く様、都度支援している | | |
| 40 | (17) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者様個々の能力・得意分野などを大切に出来る限り一緒に食事作りや家事全般を無理のない範囲で参加して頂いている | 管理者が季節の食材や入居者の好み等を考慮し献立を工夫している。誕生日には赤飯や筑前煮、いんげんの胡麻和え、ケーキで祝っている。行事食に寿司やおせちがある。献立作成に、専門家の意見が入っていない。 | 食事の栄養バランスについて、栄養士や保健師などに年2回以上の相談を受けて頂きたい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養のバランス・水分摂取量・体重の増減など身体変化に注意し記録等により職員一同が把握し、状況に合わせて支援している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 職員は誤嚥性肺炎を理解しており口腔内の清潔や乾燥に注意し、個々の能力に合わせた口腔ケアを行っている。また訪問歯科を受診して際、歯科衛生士よりアドバイスを頂いている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (18) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の能力や状態変化に応じ職員全員が尊厳やプライバシーを保って対応するよう支援している | 1日の水分摂取量や排尿回数、排便周期を把握している。そわそわしている様子を見て声掛けをしている。布パンツやリハパンを使用し自立している方が多い。夜は足元センサーを使用して見守りを強化している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 献立に野菜等の食物繊維を多く取り入れ、水分摂取量や排泄状況を共有しやすいように記録している。1日2回の軽体操等の継続で自立排便を促すよう支援している。 | | |
| 45 | (19) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている | 個々の希望に添える様好みのお湯の温度や水量を調節し、ゆっくり入っていただける様、入浴時間を提供している | 入浴は週に2~3回である。1番風呂を希望する方が多いので、その方々は曜日を替えて入浴している。浴室は温風で温め、脱衣室は暖房機で温めている。皮膚乾燥の方には、医師の指示でローションを塗っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼・夜の生活リズムが整うよう夜間はゆっくり睡眠が取れる様支援している。また日中も静養できるよう支援している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員全員が常に確認・把握するために服薬一覧を作成し、薬状を掲示している。また変更があった場合には変更点を口頭で申送り、連絡帳・業務日誌にて共有している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 新型コロナにより断続的ではあるが、傾聴・音楽・ドックセラピーなどのボランティア来訪によりメリハリのある生活で楽しみが増えるよう支援している | | |
| 49 | (20) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天候や気候に応じて散歩や外気浴等を実施している。またご家族の協力を得て外出・外泊の支援を行っている | 少人数に分かれて、将監や高森の桜を見にドライブを楽しんだ。日常的にホームの周りを散歩したり、玄関先のベンチに座り歌ったり、おしゃべりをしている。敷地内に梅と柿の木があり、梅ジュースを作ったり柿の渋抜きをして食べている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個々人の能力に応じて外出や買物の支払いは自身で行えるよう支援している | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話の要望には時間を見て必要に応じて対応している、手紙は個々の能力に応じて対応している | | |
| 52 | (21) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 生活空間にはゆっくりくつろげるようソファを置き、また混乱なく過ごせる様不必要なものは置かず片付いた状態を心掛けている。日に数回換気、清掃を行い衛生保持に努めている。 | ホールは24度の適温に設定している。窓を開放し換気を行ったり、空気清浄機を使用し感染予防に心掛けている。季節毎に雛飾りや七夕飾り、クリスマス飾りで季節を感じている。日に2回のラジオ体操や「北国の春体操」は、入居者の楽しみの一つである。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 自席でくつろいだり、仲の良い他利用者様とソファや廊下のベンチでお話したりと、思い思い過ごして頂いている。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の際、使い慣れた食器や家具、飾り物などをお持ちいただき、なじみのあるものに囲まれて、出来るだけ以前の生活に近い状態が継続出来る様支援している。 | 使い慣れたタンスやテレビ、椅子等を持ち込んだり、人形や家族の写真を飾り、自分らしい部屋にしている。カレンダーに毎日チェックを入れてる方や入居者同士が訪問し合い、おしゃべりをしている方がいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 尊厳を重視し、トイレや居室の名札をさりげなく表示し、出来るだけ自立した生活が出来るよう支援している。 | | |